

# 大学発、社会を変える特許 JSTの知財活用推進



身の回りの生活用品は知的財産であふれている。スマートフォンの部品やディスプレイ、デザイン、プログラムは、それぞれ「特許権」、「意匠権」、「著作権」などの知的財産権として法律で保護されている。例えば、発明に対して与えられる「特許権」を持つ権利者は、その発明を独占的に実施できる。発明やデザインが知的財産権として守られることで、知的創造の意欲が高められ、産業は大きく発展してきた。

大学の研究者による発明から生まれた特許技術も、広く身の回りに使われている。例えばスマートフォンやテレビのディスプレイに使われているIGZOがそれだ。経済成長の原動力として、科学技術への期待はさらに高まっている。JSTは科学技術イノベーションの創出に向けて、大学などの研究者によって生み出された知的財産の保護と活用を推進してきた。2017年には、ロイターのTop25グローバル・イノベーターにおいて、2年連続となる国内1位に選出された。ロイターは、選出理由として特許の「成功率（登録率）」や「グローバル性」を取り上げるなど、これまでの知財マネジメントの取り組みを高く評価している。

大学の技術移転において重要な知財マネジメントと産学連携活動（企業探しなど）を支援するJSTの事業とその成果を紹介する。